

教育研究所主任指導主事 笹原 秀之

バランス・三位一体

決して体の大きくないクラスの子が、またもやお代わりをしに席を立った。「たくさん食べてもいいけど、大丈夫か。」と聞くと、「なんか、体が欲しいんだよね。」と答えた。

子どもの体が栄養を欲する。

一方、子どもの心は栄養として親や友だちをはじめ、様々なものとのかわりを欲する。

子どもの心と体は常に栄養を欲求し、絶えず成長している。

しかし、欲求を満足させることによる結果だけの成長は、必ずしもバランスのよいものになるとは限らず、ましてや、人間の弱さや別の欲求によって、成長が妨げられることも多分に起こる。そこで、大人は子どもをバランスよく育てることを意図的に行っていくことが必要である。

浦和レッズは「Good Man」を土壌とし、「Good Player」を育成・実践することをチームの指針として活動している。闘う選手とは、技と健康、戦術のバランスがとれた上に人格が備わった選手であるとし、それを支えるものとして「責任感」や「前向きな考え方」「思いやり」「自己管理」等の11の要素を掲げている。さらに、この理念を広めるために「ハートフルクラブ」を運営し、地域に貢献しサッカーを通じて「こころ」を育むことをテーマとしている。体と心（そして頭）の育成を両立させることにより人間づくりを図ることは、学校教育と目的・方法の点で共通している。

文部科学省は、「人間力」という言葉で知・徳・体三位一体の成長を説いている。さいたま市の掲げる「学びの向上さいたまプラン」「子ども潤いプラン」「ジョイフルスポーツプランさいたま市」の具現化も、それぞれ単体としてでは意味が薄れる。我々教師は、常に子どもの総合的な成長を心掛け、働き掛けを行っていかなくてはならない。

「豊かな心とたくましい体を育成する」